

SSTK 通信

NO.232



九州から・北海道から 全国から であえた？

通信 223 号 もくじ

□終わりました。「第 22 回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 IN 埼玉」たくさんの方が集まりました！・・・2 / ■カンパ
ありがとうございました（ひまわり教室より）・・・3 / ■奥能登 千枚田
を訪ねてみた。「心おれた。あいつぐ自然災害 そして修復作業・・・4 /
■地活補助金、県が継続の方針・・・7 / ■地域活動支援センターへの支
援の充実強化に関する要望書・・・8 / ■有山博さんを囲む感謝の顕彰の集
いのご案内・・・10 / ■めでたく？「介助者付き入院」を果たした藤崎さん・・・
11 / ■でるでる C L U B 実行委員としての思い・・・12 / ■会費納
入ありがとうございました・・・13 / ■暮らしの目線・当事者目線での
介助者養成研修 重度訪問介護従事者養成研修 県内 2 地域で開催・・・14

編集人 一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会

〒356-0006 埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘三丁目1番24棟-403号

Tel 090-7906-9124 Email jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp

郵便振替：00180-2-566719 または 038 普通貯金 9486343

<http://www.saii.or.jp> FAX 048-737-1489

発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町十五・九 アステール藤野一階



だい ぶんかかい 第1分科会	はいくえん ようちえん がっこう あ まずは保育園、幼稚園、学校で会いましょう	かい 5階 ミニホール
● 障がいのある子の就学を考える	しょうがい こ しゅうがく かんが きむらとしひこ さいたま 木村俊彦さん(埼玉)	
● 障害のある子もない子も、就学年齢に達した子どものいる全ての家庭に 「地域の学校の就学通知」を	しょうがい こ こ しゅうがくねんれい たつ こ すべ かてい ちいき がっこう しゅうがくつうち まつもりとしひさ おおさか 松森俊尚さん(大阪)	
● いっしょに〇〇の場をつくるには？	ば かつまた と つむぎ ほっかいどう 勝又みさ都・紬さん(北海道)	
● 保育制度でわけないで	ほいくせいど きたはらともこ ちば 北原朋子さん(千葉)	
<コーディネーター>	せきけいこ 関啓子さん	

だい ぶんかかい 第2分科会	い がっこう みんなが居られる学校とは	かい たもくてき 5階 多目的ルーム C
● 地域の学校普通学級と特別支援学校の経験から考える共生	ちいき がっこうふつがっきゅう とくべつしえんがっこう けいけん かんが きょうせい はしぐち ゆか くまもと 橋口侑果さん(熊本)	
● 共に過ごし、自分らしく	とも す じぶん ちよやま なおこ さいたま 千代山奈生子さん(埼玉)	
● 不登校から見る障害のある人の就学問題について	ふとうこう み しょうがい ひと しゅうがくもんだい たけうち ぜんた さいたま 竹内善太さん(埼玉)	
<コーディネーター>	いしかわ きょうたすけ 石川 享 助 さん	

だい ぶんかかい 第3分科会	ごうりてきはいりよ と なお 「合理的配慮」を問い直す	かい 3階 ワツツルーム A
● 合理的配慮～国連障害者権利条約の定義～	ごうりてきはいりよ こくれんしょうがいしゃけんりじょうやく ていぎ たぐちやすあき かがしま 田口康明さん(鹿児島)	
● 私が話したいこと	わたくし はな のじま くみこ さいたま 野島久美子さん(埼玉)	
● 開拓の足あと	かいたく あし ふじもりしんたろう さいたま 藤森慎太郎さん(埼玉)	
● 学校現場の現状から合理的配慮を考える	がっこうげんば げんじょう ごうりてきはいりよ かんが みやざわひろみち どうきょうと 宮澤弘道さん(東京都)	
<コーディネーター>	たぐちやすあき 田口康明さん	

だい ぶんかかい 第4分科会	とも まな とも はたら あいだ かんが “共に学ぶ”と“共に働く”の間を考える	かい たもくてき 4階 多目的ルーム B
● 「共に学ぶ」の先にあるのは……	とも まな さき もんさか み え さいたま 門坂美恵さん(埼玉)	
● 差別と共生をごちゃごちゃと生き抜いて	さべつ きょうせい い め まつやまみゆき どうきょうと 松山美幸さん(東京都)	
● はじまりは高校入学	こうこうにゅうがく まえだかいり さいたま 前田海里さん(埼玉)	
● 学校で働いてみて思ったこと	がっこう はたら おも もりずみ ゆかり さいたま 森住由香里さん(埼玉)	
● 「職場参加」との出会いまで	しょくばさんか で あ ひよしとかこ さいたま 日吉孝子さん(埼玉)	
<コーディネーター>	やましたひろし 山下浩志さん	

障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会 in 埼玉 たくさんの人が集まりました！

はじめは 2 年前の広島集会。夕食交流会のとき、今回は埼玉でと言われて、後方の席では「とてもたいへん、できません！」前方の席では「やります！」と、なしくずし的に埼玉開催が決まりました。波乱万丈の幕開けです。

まず会場がなかなか決まりません。交通の便の良いさいたま市あたりでといっても、お金があまりかからないで全国集会ができる広い会場なんて見つかりません。やっと岩槻駅東口コミュニティセンターと決まって、岩槻駅東口から徒歩 1 分と便利ですが、今度は参加者が一堂に集える懇親会の会場がありません。結局、第 2 会場を設けましたが、こんなに懇親会のことで悩むなんて。交流ということで懇親会は大事なのですが、メインのシンポジウムや分科会よりも悩まされたような。

もちろん、シンポジウムや分科会をどのように組み立てるかについてもさんざん悩みました。以前だと「普通学級に入ろう」とか「高校に行こう」ということで、じゃあ誰に報告してもらおうかというように進めていけばよかったのですが。学校も分けられ、地域でも分けられ、働く場も分けられている現実から、「出会えないのはなぜ？」というテーマでシンポジウムや分科会の内容を作っていました。でも、なんだかモヤモヤしたかんじで、ほんとうにこれでやれるのだろうかというのが本音でした。みんなでモヤモヤしながらも、分離が進んでいることへの危機感は共通していたので、シンポジストや報告者やファシリテーターの小国喜弘さんやコメンテーターの三井絹子さんなどみなさんの力で形ができていきました。(サラッと書いてしまいましたが、たいへんだったと思います。)

受付や会場設営や ZOOM など役割分担もこれまたたいへんで、協力団体の人やボランティアのみなさんでがんばってくれました。(ここもサラッと書きました。)

当日はきれいな晴天。穏やかに進むであろうと期待しましたが、インフルエンザなどでキャンセルが出たかと思うと、たくさんの当日参加があつて、受付もたいへん。参加費を払っていることを忘れてまた払う人がいたり、名札を間違える人がいたり、高齢化社会なんですね。高齢と病気の只中で準備もしてきましたので。

「のとを忘れない。26.1」イベントのカンパを集めたり、全国のみなさんとさまざまな交流がありました。印刷や前日の準備などわらじの会の皆さんにたいへんお世話になりました。ありがとうございました。(実行委 竹迫) 月刊わらじ 12 月号より

お世話になります。全国交流集会、準備から当日も本当におつかれさまでした。

急だったにもかかわらずアピールタイムまで作っていただいたおかげで、たくさんの方に声をかけていただき、92,026 円集まりました。本当にありがとうございました。大切にに使わせていただきます。

僕は全国交流集会初参加でしたが、全国のみなさんから元気をいただき、今後も地道に頑張っていきたいと思っているところです。「声」を上げ続けることは大切ですね！簡単ですが御礼とカンパの報告です。今後ともよろしくお願い致します。みなさま、お身体を大切にお過ごしください。ひまわり教室 中野春樹

奥能登 千枚田を訪ねてみた。

心おれた。あいつぐ 自然災害 そして修復作業

千枚田愛耕会 白尾さん のお話を聞く/ 2025.5.30

金沢に旅行をしようとなり、行くのならばやはり被災状況をこの目で確かめたいとなり…。ゆめ風基金から助成を受けていた石川バリアフリーツアーセンターに連絡を取り訪ねた。そして、奥能登の千枚田を管理している方と、市役所の方に連絡を取っていただき、お話を聞くことができた。

金沢から輪島までリフトカーをレンタルして高速を走った。まるでじゃじゃ馬の背中に乗っているような道路のゆがみや、あちらこちらでの工事。1 年以上も過ぎているのにまだまだ手付かずの崩れた家屋があちらこちらにあった。駆け足の訪問であったが、この目で見てこの体で感じることは大事だと思った（今井）

千枚田修復作業の今

去年からいろんなボランティアの力を借りて、田んぼの修復を震災の後みんなで作ってきた。修復できたなあと喜んでいたところに、9 月の豪雨災害が起こって、本当に心が折れるという言葉を実感した。本当に何だったんだと、自然のすごさを改めて感じた。

当時はしばらく千枚田を見たくないのと、本当に落ち込んでしまった。けどやっぱり能登はうちらだけではないんで、他の方々も少しでもいいから頑張ろうということで、我々も弱気になっていないで前を向いていこうかということで、少しずつやり始めて、今ここまでできた。

水は向こうの山の方から来ている雪解け水が来ている。水は豊富で今まで枯れたことはない。

塩害はさほどない。ただ風は、花が咲くころに潮風がぱあっと吹かれたら畦のへんは白くなって中に米ができてくれなくなる。塩害はないけど風で実がつかなくなることはある。

ただ風のおかげで、害虫が付きにくい。今までは減農薬で栽培していたけれど、今年からは有機肥料を使った完全無農薬を目指している。それをすることによって、草取りとか大変にな



るけれど、ボランティアとかみんなの力を借りて作っていこうと。

まだ 4 分の 1 くらいが実際作づけてきているんだけど、後の 4 分の 3 はこれからです。

海岸線近く近くは 5 段ほどの田んぼが震災の地滑りで無くなってしまっている。それもどういう風に修復しようか、行政の方々とか地元の仕事関係者の方々と相談しながら千枚田らしい田んぼを作っていこうかなと思っている。

まだまだ先は長いですね。

震災当初はそんなに慌てていなかったけど、2～3 年後には完全に戻したいと思って修復していた時、豪雨があつてひどくて、ゼロじゃなくマイナスになった。今までにああいう豪雨は

なかった。奥能登にあれほどひどい線状降水帯って私は本当に覚えがない。

気候が相当変わってきていますね。

だからそのためには我々千枚田は去年の暮れから SDGs として二酸化炭素排出を抑える活動もやり始めて、その一環で完全無農薬にしよう。少しずつ環境にやさしい米づくりに。

それと今年石川県の能登のどちらかにトキが放鳥されるということで、トキが飛んでくれればいいなと、餌場となって。それを願ってみんな頑張っている。

今は草で覆われていてはつきりとは分かりにくいけど、結構崩落している。十か所くらい。秋に地元業者の方々と一緒に修復するということになっているけど、まだまだですね。

地震が起きた時

(地震の時間は)16 時 10 分だった。すごい揺れた。そのころお酒飲みながらこたつに入っていたけど、急に揺れ始めて、収まるかなと思ってても収まらないし、段々揺れがひどくなるし、裸足で窓を開けて出ました。開けるといっか、窓とか戸が開きましたね。

どちらも家の間にちょっと挟まっていたんですけど、これどうしようか瓦落ちてきたら危ないなって思いながらいた。

30 秒くらいは揺れていたんじゃないか。感覚的にはすごく長かった。となりの家の納屋が倒壊したりして、とにかくみんな大丈夫かなって。ここは 11 軒くらいある。一応自分は区長もしておりまして、安否確認をしないといけなくて、ぐるっと一通り回って歩いた。けが人はなかった。地震の時は、ここは崩れたりとかじゃなくて亀裂が入った。

幾筋もの亀裂がば————と下の海の方から山の方にかけて。上から見てもすぐ分かるく

らいの亀裂だった。

海岸ぜんぶ隆起した。こちらは大体 2M 近く隆起した。ごろごろした岩は前はなかった。外浦のほうはぜんぶ隆起して、内浦の方はかえって沈没したという。あちらのほうは津波被害もあった。

亀裂が入ったところは土を入れてとかってやって修復した。修復したと思ったら今度は豪雨災害の土砂で、、、真ん中のあたりも崩れ落ちてしまった。そこも修復して今年やろうと思っていた田んぼがそうだったので本当に心が折れた。

ライフラインが全部だめになった。電気、水道、、そこに火事が発生して。

携帯電話の基地局も基本的には山とか土手とかに刺さっているのて揺れてたぶん倒壊したりで携帯もつながらない。固定電話ももちろんつながらない。この辺はまだ固定電話もつながっていない。

ここを調べるにはあちらもこちら土砂崩れでどっちも行けない状況になってしまっ。



市

役所の方はどちらに？

輪島のまちのほうの自宅にいた。海に近いので津波警報が出て、高台にすぐに避難した。結局隆起の影響で津波の被害はなかった。でも情報が全然ない。ライフラインが全部途絶えて情報が取得できないから、津波で波が引いているように見えた。

でもいつまでたっても引いたままなのでどうなっているのかと思って後から聞いたら、引いたんじゃなくて隆起して波があっちに行っちゃっていた。

元旦だったから自動招集で、震度 5 強以上で自主的に行かないといけない。次の日から行った。家族の精神状態がちよっと、、、

震災後の修復作業は

震災当初、ここは全戸避難した。私はこちらに帰ってきたのは去年の 7 月くらい。田んぼは 3 月の終わりから少しずつ修復しながら 120 枚の田んぼをしてきたけど、その間は片道 3 時間から 4 時間かけてこちらに通って、あちらの道の駅はまだ閉鎖されていたからあそこに仮に泊まって、3 日ないし 4 日こちらで作業してまた避難所に戻るという生活の繰り返しでやってきた。



豪雨災害直後に千枚田これだけ頑張ってきたけど豪雨被害をうけましたと、メディアの方が取材に来られる。私もいくつか対応したが話す気にもなれなくて。ある方が今何が必要ですか、欲しいですかと聞いてきた。勝手にこっちは傷心しているのにずけずけと言ってくるなと思いつつ、半分呆れて「やる気をください」と言った。もうやる気がないんですと。それほどなんというか落ち込みましたね。

震災当初、金沢から輪島まで来るのにも片道 3 時間から 4 時間かかった。道路もまだまだ。そういった中でも少しでも修復して頑張ろうかなと思ってきたんですけど、あの時は本当に心折れて。

うちだけじゃなくて、能登全体の農家をされている方みんな同じ目に遭っているし。まだここは観光地ということで行政の方がある程度してくれるが山奥の田んぼとかされていた方は全然なんです。水もまだ引けない状態で、山間地の方はもう辞めたという方がほとんどです。だからそういった中で少しでも頑張ろうということでやっています。

愛耕会は今は、名簿上は 22~23 人いるけど実際来れる人は大体 12~13 人。震災前までは。震災を機に家が倒壊してこちらには居られないという方とかいろんな方がいてメンバーの半分くらいは、、、今こちらに来て作業できるのは 5~6 人。手作業ですね。

いろんな方々に千枚田や奥能登を知ってほしいと思っている。



地域活動支援センター（地活）のうち、旧県単事業の地域デイケア施設や精神障害者小規模作業所などから移行するなど一定の要件を満たした団体に交付される「サービス向上型補助金」について、県が廃止も含めた見直しの可能性を県が示唆していた問題。

2025 年 8 月 19 日、障害者地域活動センターふらっと（新座市）、地域活動支援センターパタパタ（春日部市）の 2 つのセンターが県内の地活に呼びかけ、連名で補助金継続を求める要望書を県知事あてに提出しました。

要望書の中では、地活が単なる「日中活動の場」ととどまらず、転居のための家探しや家出時の搜索、家族とのつなぎ役など、生活全般にわたって柔軟な支援をしている事例や、毎日の通所ができず、日割り計算の報酬体系となっている就労系施設や生活介護がなじまない人達の大切な居場所になっている現状などが述べられ、従来の「就労系や生活介護への移行を促進するための補助金」という意味をあらため、地活ならではの存在価値にもっと県も着眼していくことを訴えました。

翌月の 9 月 30 日に行われた県議会では、安藤友貴議員（公明党県議団）の一般質問に対し、「障害福祉サービスに移行しない地域活動支援センターに対して、県として引き続き必要な予算の確保に努める」との答弁が県・福祉部長からありました。また副知事からは「地活には日割り、時間割計算の報酬体系は導入しない」との答弁がありました。

補助金廃止の可能性を示唆してきた当初の姿勢から大きく転換をし、今後も地活への必要な予算の確保を約束する、画期的な答弁でした。



2025 年 8 月 19 日

埼玉県知事
大野元裕様

地域活動支援センターへの支援の充実強化に関する要望書

平素より共生社会の実現に向けてご尽力いただき感謝申し上げます。

さて、令和 5 年度施策評価有識者会議において、地域活動支援センター（以下、地活）サービス向上型補助金を含む県単独事業の見直しの必要性についての意見が出されました。その後、県は市町村へのヒアリングや地活への訪問を行い、実態把握と今後の補助金の在り方について検討をされていると伺っております。

また、埼玉県議会令和 6 年 12 月定例会においても、地活への安定的な支援の必要性について一般質問で取り上げられ、県政の場においてこの問題が議論されるに至りました。

私ども地活運営団体は、県補助金が見直されたり廃止されたりすることで、地活への県の支援が大幅に後退することを心配する利用者や職員の声を受けて、地活の今後を考える会合を持ち、改めて地活の必要性や地活ならではの支援の事例を共有しました。

その中で、地活は生活介護や就労系サービスの利用が難しい人の活動の場、居場所となっている実態が改めて浮き彫りになりました。これは、日割り・時間割計算となっているこれら法内サービスと違い、地活の報酬体系の縛りが緩やかで、障害の状況によって休みがちの方、週 1 回などの利用頻度の方でも受け入れが可能な制度となっているからです。また、通所時間中の支援のみならず、入退院の支援や住宅探し、家族との調整、行方不明時の捜索といった支援まで、地活が担っている事例があることも報告されました。

これらの取り組みは、地活だからこそできる活動です。改正障害者総合支援法では、障害のある人の地域生活を推進することが示されています。地域生活を過ごす上で必要なことは、その人に沿った支援を行うことです。重層的支援体制整備事業でも市町村全体の支援機関・地域の関係者が断らず受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトに、「属性を問わない相談支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の 3 つの支援を一体的に実施することを必須にすることが提示されています。そのような中で地活の有する活動内容や目的は、これらの法や

事業の推進に沿うことと考えています。

サービス向上型補助金の要綱等には明文化されていませんが、同補助金には法内サービスへの移行を促進していく目的があると、県担当者から説明がありました。しかしながら、地活が実際に行っている活動内容を見ていくと、法内サービスへの移行を目指しているわけではなく、むしろ法内サービスでは受け止めきれない人達への支援を地活が担っていることがわかります。

このようなことから、県は改めて地活には独自のニーズがあり、法内サービスに移行することのみを評価対象とするのではなく、むしろ地活の強みを伸ばしていくことを県の役割だと認識していただきたいと考えます。サービス向上型補助金についても改めてその視点からの継続と充実強化をはかっていただきたいと考えます。以上の観点から、以下の事項について要望致します。

1. 生活介護や就労系サービスとは異なるニーズに地活が応えている実態を認識し、法定サービスに移行しない地活に対しても引き続き県としての支援を継続、充実させてください。
2. 休みがちな方、引きこもりがちの方、障害や病状が安定しない方などが安心して通所できる場として地活が存在している実態を認識し、日割り計算、時間割計算の報酬の支払いを導入しないでください。
3. 今後、地活のあり方や補助金の変更をする際には、地活運営団体や利用者、家族などの意見を聞き、施策を進めてください。

【提出団体(五十音順)】地域活動支援センターあいろこいろ 飯能市精神障害者地域活動支援センター希望 地域活動支援センターこぶしの家 地域活動支援センターさといも作業所 地域活動支援センターパタパタ 地域活動支援センターひかりの森 地域活動支援センター飛行船2号 地域活動支援センター福祉工房楓 障害者地域活動センターふらっと 地域活動支援センターみなみ 地域活動支援センターめだか工房 桶川市地域活動支援センター芽生えの会

2025 年度 障害者制度改革 埼玉セミナーpart17

動き始めた「脱施設とインクルーシブ教育(仮)」

講師:尾上浩司(DPI 副議長)

日時:2026 年 3 月 14 日(土) 13 時半から

会場:岩槻駅東口コミュニティセンター

資料代:500 円

有山博さんを囲む感謝と顕彰の集いのご案内

有山博さんを囲む感謝と顕彰の集い 実行委員会
実行委員長 鈴木光二

師走の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、長年にわたり特定非営利活動法人上福岡障害者センター21の代表としてご尽力いただいた有山博さんが、本年6月をもって代表職を退かれました。

障害者の自立生活運動や地域福祉の向上に多大なる貢献をされてきた有山さんのご功績を振り返り、

感謝の意を表するとともに、今後のご健勝を祈念する場として、下記の通り「有山博さんを囲む感謝と顕彰の集い」を開催いたします。

ご多忙の折とは存じますが、ぜひご参集賜りますようご案内申し上げます。

記

- ・日時：2026年1月18日（日） 午後1時30分～4時30分
- ・会場：ふじみ野市サービスセンターホール
（住所：ふじみ野市霞ヶ丘1丁目2-7 上福岡駅西口ヤオコー奥2階）
- ・内容：有山博さんのご功績紹介（とんぼの会・センター21での活動）、感謝の言葉、懇談など
- ・参加費：無料
- ・お申込み：1月10日までに、下記参加申込みフォーム若しくは実行委員会事務局までご連絡ください。

参加申込みフォーム <https://forms.gle/WVDknm4ya3KJka3dA>

もしくは下記QRコード



事務局（竹内善太） takeuchi-zenta@k-center21.net 090-3506-9425

有山さんは 当協会の会員でもあり、現在もアンテナショップかつぱの監事を引き受けてくださっています。当協会でも積極的に活動を支援していただいています。

めでたく？「介助者付き入院」を果たした藤崎さん

入院時の介助保障を考えるチーム

世話人 辻浩司

わらじの会の会長でもある藤崎稔さん（春日部市）が 10 月、地元の S 病院に尿路感染症で一週間ほど入院しました。

今回の入院は、「介助者の付き添い」を病院側が初めて認めた“画期的な”ものでした。

藤崎さんのように言語障害などコミュニケーションにハンディがある重度の障害者が入院するには、重度訪問介護によるヘルパーの利用が厚労省によって認められています。しかし、藤崎さんは過去の入院時には全て介助者の付き添いを拒否されてきました。

「看護師さんに自分の言葉が通じず、呼んでも気づいてもらえず、ただ天井だけを見て過ごしていて、つらくて泣いた」とご本人が語る入院生活で、まさに入院は恐怖以外の何物でもなかったこれまででしたが、今回は個室で介助者が付き添っての入院でしたので、かなり安心して過ごしている様子でした。

埼玉の障害者運動の中でもこの入院時介助の問題はこれまでも県交渉などで再三取り上げられてきましたが進展がなく、自立生活協会ではこの状況を突破するために、昨年から「入院時の介助保障を考えるチーム」を作って情報収集や勉強会を重ねてきました。メンバーは藤崎さんに加え、当協会代表理事の八木井雄一さん、この問題を長く訴え続けていた鴻巣の故・沖田博さんの介助者だった菊地一さん、医師の水谷淳子さんなどこの問題に関心のある有志です。

今回、介助者の付き添いが認められた背景には様々な要因があると思いますが、このチームの活動が病院関係者に伝わったり、当事者が声を上げ続けたことも大きな力になったと思われます。



【関心のある方はぜひ、ご参加ください】

第 10 回入院時の会保障を考えるチームミーティングのお知らせ

日時：2026 年 2 月 16 日（水）13:30～15:00

会場：くらしセンターべしみ（越谷市恩間新田 249）オンライン併用（URL は当協会までお問合せ下さい）

内容：入院時介助などについての情報交換等

でるでる CLUB 実行委員としての思い

森住由香里

今回も、無事にでるでる CLUB を開催できました。当日は東京スカイツリーの方へ、行ってきました。何事もなく当日はみんな楽しめたと思います。集合場所をわからなくて時間に遅れた人もいました。が、グループごとに分かれてみんな各々に交流はできたと思います。

実行委員会で集まって決めていく毎に、休日じゃなく、グリコの工場見学やがりがり君の工場見学と色々な所の工場見学という案が挙がりました。そこで工場に電話したところ「平日に見学は行っているということだったので、でるでる CLUB を休日から平日にしたいのではないかと案が上がった。

平日はみんな各々に日中通っている場所や、日中職があったりするため、やっぱり平日のでるでる CLUB の開催は難しいであろう。と私の方から意見を出した。だがメンバーの中では「事業所に食べ物にされているなよ」という言葉や、昔より活動先からどこかイベントごとに出るのは難しい。事業所をやっていく上で事業所に入ってくる収入とか、人を出せなくなっている。

私だって昔は「今日はどこどこ行ってくるから」といってすぐオッケーを出してもらい、日中活動が終わってからお給料も出ない中、18 時～19 時くらいまで会議をしに行くということが、当たり前で、それが月 3 回とかあっても平気だった。けど、みんな体力的にも障害が重度化してヘルパーさんを使うため、なかなか夜に出て行けるような時間が無くなったりしている。

「食べ物にされるなよ」というのもわかるけど、そこに通って時間を過ごす。そこでなにか一緒に日中過ごす場所であり工賃をもらうことで喜びがあったりする。何が正解とかではないけれど、みんなが使っている制度でなかなか外に職員が押し出せないのもわかる。でもみんなが言うように一人一人がそこに戸惑いもなく制度のことも考えずにやりたいことが出来たら、どれだけいいイベントであったり時間も有効に使えたりというものがあるけれど、その制度に中で生きていかないと私たちの生活が摩耗してしまうのが実際あると思う。

昔みたいに色々な人が交流をしてでるでる CLUB が開催されてきたけど、制度があるために自分が思うようなところややりたいことができなくなっているのも事実あると思う。イベント一つにしても全部がつながっている。

県交渉の制度の問題とかいろいろな話をしているけれども、全部がつながってくるのだと思う。制度があることで助かっていることもある。でも、「制度が行き場所を制限している部分もある」という事は県交渉でも言っていないといけなと思う。でるでる CLUB としては制度の問題もあるけれど、外に行けない人をでるでる CLUB の名のもと外にでて行けるということを、一緒に考えながら続けたいと考えました。

なんだかんだ言ってもでるでる CLUB のように、埼玉県内の各地域の人と交流ができ一緒にイベントをやるといのは少なくなっているの、各イベントを大切にしていきたいと思いました。ですのでまた、今後もでるでる CLUB をよろしく願います。

みなさん色々あってなかなか出れないと思いますが、出れた時にはみんなで楽しみましょう。

次回も良いイベントを考えられるように頑張ります。



2025 年度 一般社団法人埼玉障害者自立生活協会会員新規・更新のお願い

日頃より当協会の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

年会費 個人 4,000 円 団体 10,000 円 賛助会員 10,000 円です

ゆうちょ銀行

他金融機関からの振り込みは【店名】038 【店番】038 普通 9486343

会員の皆様には、機関誌通信をお届けいたします。

郵便振替口座への振り込みは下記貼付の用紙をご利用ください。

（とりはがすとき用紙の破損に注意してください）

2025 年度会費納入ありがとうございました。（敬称略）

会沢完 会沢まち子 相原忍 朝日雅也 新井利民 新井満 有山博 市原光吉 猪瀬佳子 今井和美 今井教男 梅沢博史 内野かず子 大坂富男 小田真 大塚正樹 大野邦子 小川満 荻野幸子 小田原厚子 小田原道弥 小野達雄 神田正子 菊地一範 北村文子 木村俊彦 九石智子 倉川典子 坂口佳代子 坂口鶴子 柴田澄江 下重美奈子 須藤勇一 瀬井貴生 関啓子 高橋儀平 高橋幸江 高柳俊哉 武井英子 竹内善太 竹迫和子 田中美恵子 辻浩司 友野由紀恵 中山佐和子 並木理新 相勝巳 野島久美子 橋本克己 橋本直子 羽田亮介 林まり 原和久 半田清雄 平塚正樹 平林小太郎 福島里美 藤崎稔 古河誠 細川律夫 本間亜貴代 前田直哉 正木敬徳・増田純一 水谷淳子 森住由香里 八木井雄一 八藤後忠夫 山下浩志・吉井眞寿美・吉田久美子・吉田もも・吉原広子・渡辺真一 NPO ふくしネットにいざ NPO センター21 協働舎レタス くまのベイカーズ GH ひまわり 二人三脚 CIL ひこうせん（一社）みつくすビート キャベツの会 CIL 所沢ファントム NPO リンクス・川瀬クリニック 移送 サービスネットワーク

ご寄付ありがとうございました

小川満 瀬井貴生 関啓子 並木理 新相勝巳 平塚正樹 栗原彬 石井樹章 今井和美 斎藤はつえ わらじの会 田島玄太郎 吉井ますみ 吉田久美子 中山佐和子

2025 年 11 月 30 日現在 行き違いの場合はご容赦ください

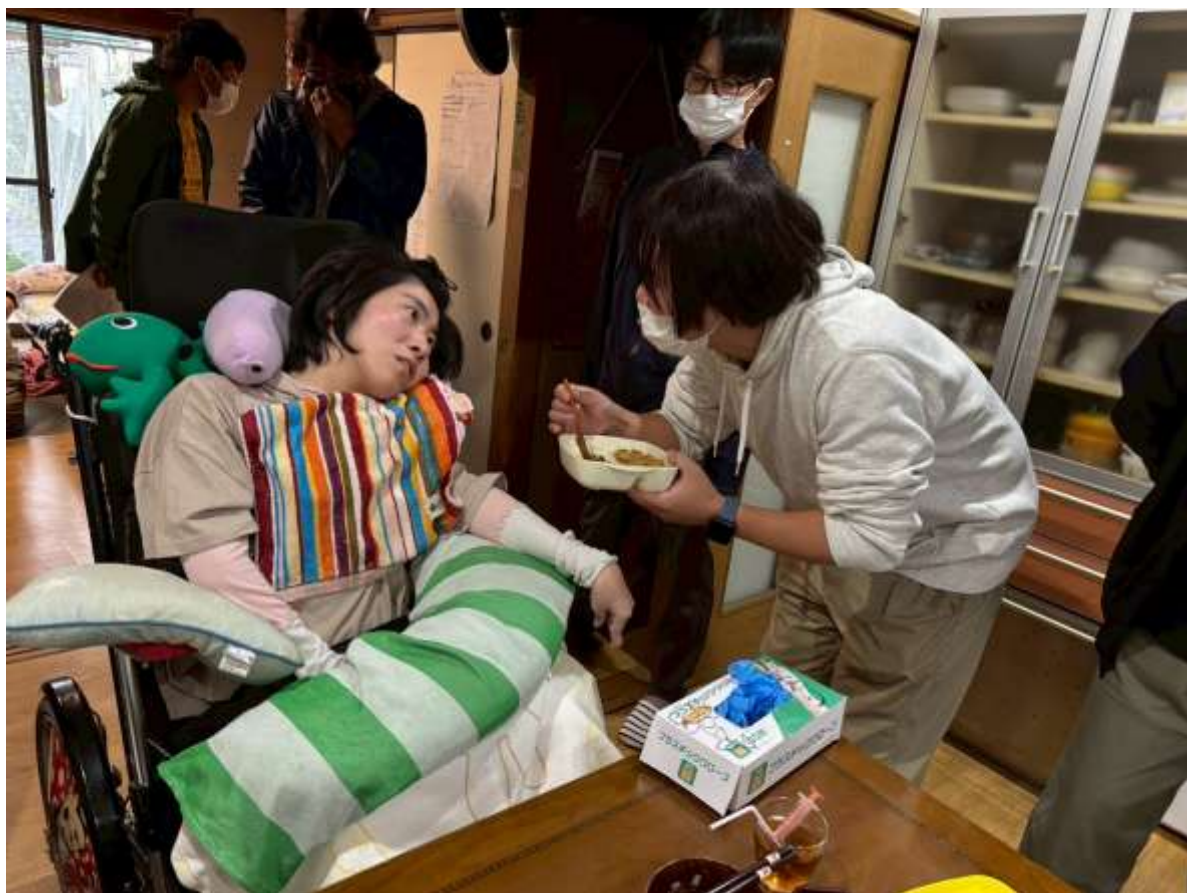
今年度、初めての事業です！ 受講者募集！ 講師募集！

「重度訪問介護従事者養成研修」8 月スタートしました。すでに 8 名の重度訪問介護従事者が研修をしゅうりょうしました。じっさいにおこなってみて、改めて、各地域それぞれの人によって暮らし方が違うことを、あらためて実感します。

当たり前に地域で暮らすということは、その人や地域の数だけのあたり前があるということです。この研修で伝えてみませんか？受講者のみならず講師になる方も募集！

これこそが、重度の障害当事者の仕事でも役割であるのだと思います。

暮らしの目線、当事者目線での介助者養成研修 重度訪問介護従事者養成研修 県内 2 地域で開催



自立生活協会主催の重度訪問介護従事者養成研修（基礎・追加過程）が 8 月 23、24、30 日に春日部市内で、9 月 25、26、10 月 1 日には新座市、坂戸市内で開催されました。

企業などの研修事業者が行う研修では、ややもすると教室内で完結してしまうことが多いと思います。

今回の研修では、障害のある人の自宅を訪問して今の暮らしや生活歴について話を聴き、自宅内でのその方の介助を体験してみる時間を設けたり、カラオケの会や地域のハロウィンイベントに当事者と一緒に参加する時間を設けるなど、「暮らしの目線、地域の視点、当事者の参加」を盛り込んだ、当協会ならではの研修内容となりました。

●再発見の機会にも

講師を引き受けてくださったメンバーも、普段、介助現場に関わっている職員をはじめ、当事者、地域の診療所の医師や保険師さんなど多彩な顔触れでした。いずれも普段からつながりのある方がほとんどでしたが、改めてそういった方の話を聴くと今まで知らなかったエピソードや思いが語られたりする場面も多く、この研修自体がある意味での、関係性の再発見、地域人材の掘り起こしといった意義があるのだなと感じました。



●なぜ、資格研修を主催するのか

当協会は地域で暮らす障害者を支える諸制度が極めて貧弱だった時代に、地域のつながりの中でいろんな人たちの手を借りながら地域で生きる障害者の生活を支え、共に生きる地域社会の実現を目指して設立された法人です。支える人たちの資格のあるなしで分断する介助資格の強制には、疑問を呈するスタンスをとってきました。



しかし、この 20 年間の間に公的介助制度は以前と比べれば格段に充実した一方、資格制度は強化され、資格を持たない人が障害者の介助に関わることへのハードルが高くなっています。また、介護ビジネスとしての企業の参入によって、介助は商品として売り買いされる対象となりました。

かつてのように障害者が駅前や大学などでビラをまいて介助者を募集し、自宅や活動の中で介助のやり方を障害者自身が教えて介助者を育てていく、という光景は激減しました。当協会の関係でも自前の介助派遣事業所を運営している団体もありますが、外部の研修で資格を取っている現

状があります。

重度訪問介護は、長時間の介助を必要とする重度障害者の地域生活を支えるサービスとして、障害者運動の力で誕生した制度です。「家事援助」「身体介護」などのように介助内容で切り分けられることなく利用できる、使い勝手のよいサービスです。また 20 時間という比較的短時間で介助者の養成ができ、小規模な法人でも研修の主催が可能です。

そこで当協会がこの重度訪問介護従事者研修を主催し、講師をその地域の人たちにやってもらったり、研修の募集や運営を地域の人たちが担ったりしながら、地域の関係性に根差した研修を開催し、介助に関わる人を増やしていこうということになりました。

これが当協会が資格研修を主催する目的です。





重度訪問介護 従事者養成研修

当協会の研修は、障害当事者や、障害のある人の地域生活にかかわる人たちを講師として、「地域で共に生きる介助」の視点で実施していきたいと考えます。

また、研修会場をさまざまな地域に設定することで、地域で活動する方々を講師やスタッフとして開催し、多様な研修内容としたいと考えます。原則として、重度訪問介護従事者として従事することを希望する方、従事することが確定している方または従事している方、当協会の重度訪問介護養成者研修をぜひ、受講していただければと思います。

（一社）埼玉障害者自立生活協会 メール: jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp

電話 090-7906-9124 (担当 辻・今井) 会場: NPOかがし座(春日部市)

開催日時 2026年1月17日(土) 午前9時～午後5時10分(休憩合計1時間)

1月18日(日) 午前9時～午後5時10分(休憩 合計1時間)

1月24日(土) 午前9時～午後4時30分(休憩 合計50分)

研修内容 重度訪問介護養成者研修(基礎・追加研修) 締め切りは1月10日(土)

費用 30,000円(テキスト代・実習材料費込み) ※受講料の補助については協力事業所にお問い合わせください。

ご申し込みいただいたのちに、日程等の詳細をお送りいたします。お早めにご連絡ください

編集人 一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会 SSTK 通信NO232 頒価 200円

通信編集部 〒344-0021 埼玉県春日部市大場690-3

TEL 090-7906-9124 FAX 048-737-1489

郵便振替: 00180-2-566719 または 038 普通貯金 9486343

E-mail: jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp

<http://www.sail.or.jp/>